# クラス①

2019/12/04

木南 貴志

# オブジェクト指向

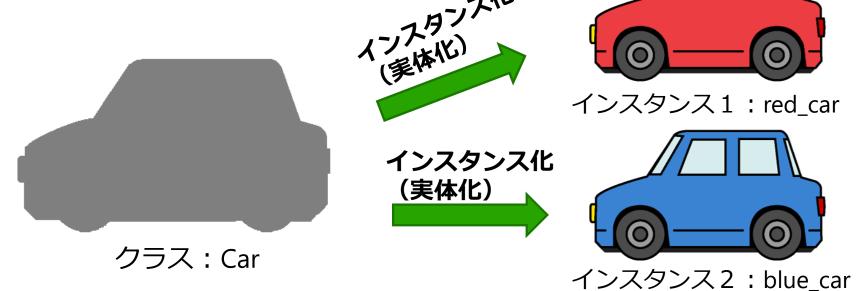
Pythonはオブジェクト指向の言語

**オブジェクト指向**:クラス、関数をオブジェクト(物)として扱う

**クラス**: オブジェクトを生成するための型

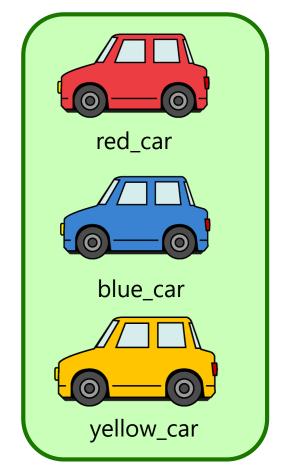
**インスタンス**: クラス(型) からインスタンスを生成(実体化)

例) 車



# オブジェクト指向をする理由①

### •作業量を省略可能

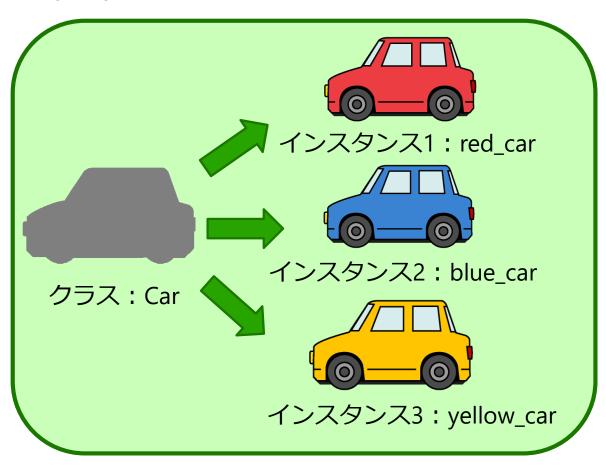


クラスを使用しない場合

- red\_carred\_carに走る機能を付与red\_carに止まる機能を付与red\_carを赤色に設定
- blue\_carblue\_carに走る機能を付与blue\_carに止まる機能を付与blue\_carを青色に設定
- yellow\_caryellow\_carに走る機能を付与yellow\_carに止まる機能を付与yellow\_carを黄色に設定

# オブジェクト指向をする理由①

•作業量を省略可能



クラスを使用する場合

- ・クラスCar走る機能を付与止まる機能を付与
- ・Car → red\_car red\_carを赤色に設定
- ・Car → blue\_car blue\_carを青色に設定
- ・Car → yellow\_car yellow\_carを黄色に設定

どのインスタンス(red\_car, blue\_car, yellow\_car)にも 共通する機能(走る・止まる)はクラス(Car)で設定

→作業量の省略

### 前ページの例をコードで比較

・クラスを使用しない場合

#### 似たような コードを 3回記述

```
red_car_run = "run"
red_car_stop = "stop"
red_car_color = "red"
```

blue\_car\_run = "run" blue\_car\_stop = "stop" blue\_car\_color = "blue"

yellow\_car\_run = "run" yellow\_car\_stop = "stop" yellow\_car\_color = "yellow"

red\_carを走らせたい時

print(red\_car\_run) #結果 run

#### ・クラスを使用する場合

車が共通して 持つ機能は クラス内で記述

```
class Car:
    def __init__(self, color):
        self.color = color
    def car_run(self):
        print("run")
    def car_stop(self):
        print("stop")
```

red\_car = Car("red")
blue\_car = Car("blue")
yellow\_car = Car("yellow")

red\_carを走らせたい時

red\_car.car\_run() #結果 run

### クラスを使用した時のコードの説明

```
class Car:
  def __init__(self, color):
     self.color = color
  def car_run(self):
     print("run")
  def car_stop(self):
     print("stop")
red car = Car("red")
blue car = Car("blue")
yellow_car = Car("yellow")
```

class (classの名前)でクラスを作成 クラスの頭文字は大文字にするのが通例

### コンストラクタ(初期化)

```
class Car:
  def __init__(self, color):
     self.color = color
  def car_run(self):
     print("run")
  def car_stop(self):
     print("stop")
red car = Car("red")
blue car = Car("blue")
yellow_car = Car("yellow")
```

def \_\_init\_\_コンストラクタ(初期化)

def \_\_init\_\_ に書かれたコードはインスタンス作 成時に必ず実行

・selfはインスタンス自身を示す

クラス内に作成する関数(メソッドという) の一つ目の引数は必ずself ※selfについては次ページで詳しく解説

## self

#### selfはインスタンスそのもの

#### selfを指定した場合

```
class Car:
    def __init__(self, color):
        self.color = color

red_car = Car("red")
print(red_car.color)
```

#### 結果

red

上記ではself = red\_carなので red\_car.colorと指定すると red\_carの色の情報を引き出せる

#### selfを指定ない場合

```
class Car:
    def __init__(self, color):
        color = color

red_car = Car("red")
print(red_car.color)
```

#### 結果(エラーが出る)

'Car' object has no attribute 'color'

\_\_init\_\_でcolorを宣言しているが、selfを つけていない

→ red\_carに色情報は与えられていない

### クラスを使用した時のコードの説明

```
class Car:
  def __init__(self, color):
     self.color = color
  def car_run(self):
     print("run")
  def car_stop(self):
     print("stop")
red car = Car("red")
blue car = Car("blue")
yellow_car = Car("yellow")
```

・def メソッド():

クラス内に作成された関数を**メソッド**※メソッドについて次ページで詳しく説明

# メソッド

### クラス内に作成された関数をメソッドという

```
class Car:
    def __init__(self, color):
        self.color = color
    def car_run(self):
        print("run")
red_car = Car("red")
print(red_car.car_run)
```

#### 結果

run

- ①クラス内でメソッドを作成
- ②インスタンスを作成
- ③インスタンス名.メソッド名でインスタンスのメソッドを実行
- ※左の場合 red\_car.car\_run で実行

# 補足データ型のクラスとメソッド

### 通常の変数もクラスに属している

```
class Car:
    def __init__(self, color):
        self.color = color
    def car_run(self):
        print("run")
red_car = Car("red")
print(type(red_car))
```

#### 結果

```
<class '__main__.Car'>
```

```
red_carはCarというクラスに属している
(今回は_main_は無視)
```

```
a = [1,2,3,4] print(type(a))
```

#### 結果

<class 'list'>

aはlistというクラスに属している

# 補足データ型のクラスとメソッド

### 通常の変数もクラスに属しているためメソッドが存在

```
class Car:
    def __init__(self, color):
        self.color = color
    def car_run(self):
        print("run")
red_car = Car("red")
red_car.car_run
```

#### 結果

run

Carのメソッドcar\_runを実行

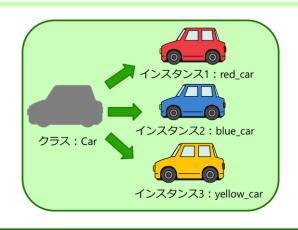
#### 結果

[1, 2, 3, 4, 5]

listのメソッドappendを実行

### インスタンスの生成

```
class Car:
  def __init__(self, color):
     self.color = color
  def car_run(self):
     print("run")
  def car_stop(self):
     print("stop")
red_car = Car("red")
blue car = Car("blue")
yellow_car = Car("yellow")
```



```
インスタンス名 = クラス名(_init__の引数)

・red_car = Car("red") の場合

__init__ (コンストラクタ)で

self.color = "red"(つまりred_car.color = red)

を実行

色(color)が赤("red")の車(red car)を生成
```

# オブジェクト指向をする理由②

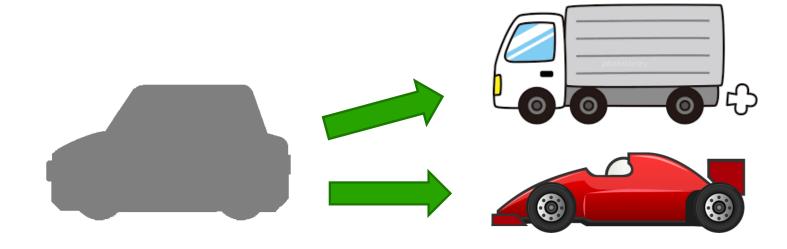
### 大人数で開発するときに便利(車を例に説明)<br/>

- ・「車」をあらかじめ用意
  - → 「走る」「止まる」のコードを知らなくても車を使用できる
- ・「車」を用意しない
  - → 「走る」「止まる」のコードを理解する必要あり
    - → 正しく理解しないと「走る」「止まる」の部分を破壊する恐れあり

<u>「車」をあらかじめ用意すれば基本的な機能の中身を考えず、追</u> 加したい機能のみに集中可能

# オブジェクト指向をする理由③

### 同じようなモノを作りやすい(車を例に説明)



レージングカー、トラックのどちらも「走る」「止まる」は共通

→ 使用できる機能は再利用

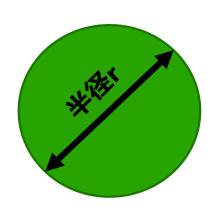
### 上手く再利用すれば作業効率が向上

## クラス変数、インスタンス変数

クラス変数: クラス内にある変数(すべてのインスタンスに共通する変数)

インスタンス変数:メソッド内にある変数(個々のインスタンスで異なる変数)

### 例)円



- ・クラス変数(全ての円が共通した値をもつ変数): 円周率(=3.141592653589793)
- ・インスタンス変数(円によって異なる値を持つ変数):半径

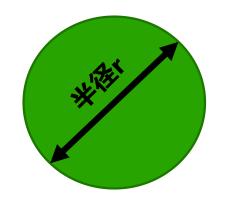
# クラス変数、インスタンス変数

### 前ページをコードで記述

class Circles:

pi = 3.141592653589793

def \_\_init\_\_(self, r):
 self.radius = r



pi = 3.141592653589793 をクラス変数として宣言

self.radius = r をインスタンス変数として宣言

# クラス変数、インスタンス変数

### クラス変数、インスタンス変数、メソッド内の変数の比較

#### クラス変数の参照

#### class Circles: pi = 3.141592653589793

circle a = Circles(2) print(circle\_a.pi)

#### 結果

3.141592653589793

### インスタンス変数の参照

#### class Circles: pi = 3.141592653589793

circle a = Circles(2) print(circle\_a.radius)

#### 結果

2

#### メソッド内の変数の参照

```
class Circles:
pi = 3.141592653589793
```

circle a = Circles(2) print(circle\_a.hoge)

#### 結果(エラーが発生)

'Circles' object has no attribute 'hoge'

#### 変数の種類によって特徴が違う

# 練習問題

クラスTriangleを作成

Triangle内に三角形の面積を求めるメソッドを作成

底辺 = 6、高さ = 10 の三角形triangle1

底辺 = 2、高さ = 5 の三角形triangle2 を作成

learn\_python/kadai/day3内に【2019/12/04【自分の名前】.py】を

pull request する

pull requestしたらissue【2019/12/04 課題】にコメント